海部南部消防組合

Amananbu Fire Department

Amananbu Fire Department since 1973

50周年

海部南部消防組合　発足５０周年　記念誌

あいさつ

消　防　長
佐藤　克行

昭和４８年４月に海部南部消防組合が設立され、５０周年という記念すべき節目の年を迎えました。この間、管内市村を始め、組合議会議員の皆様、消防関係各位の御支援、御協力をいただき深く感謝申し上げます。組合発足当初は、消防職員２７名でスタートし、それから半世紀、先輩諸兄の御尽力により消防力は増強されてきました。そして、現在１消防本部１署、１分署、１出張所、消防職員１０５名によって弥富市、飛島村住民の生命身体財産を火災等から保護し、社会公共福祉の増進に資することを目的として日々消防業務を行っています。

この５０年間、社会情勢や自然環境は大きく変化しました。高齢社会を迎え、救急需要が増大しているだけでなく、平成７年の阪神淡路大震災、平成２３年の東日本大震災、そして近年では豪雨による河川の氾濫など、各地で大規模な自然災害が発生しています。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックも続いており、これまでに経験したことのない事態が私たちを襲っています。

このような状況の中で、消防を取り巻く環境も大きく変化しており、消防への期待はこれまで以上に強く感じられています。私たちは地域の皆様から信頼され、親しまれる消防を目指し、一人ひとりの消防職員が「熱意」をもって「創意工夫」し、そして「誠心誠意」を持って邁進して参ります。

結びにあたり、関係各位におかれましては、今後とも海部南部消防組合に対するなお一層の御理解と御支援を賜りますようお願いを申し上げ、発足５０周年を迎えての御挨拶とさせていただきます。

位置及び情勢

当組合は、愛知県の西部に位置し、東経１３６°４６′２７″、北緯３５°４′５１″で、東は名古屋市及び蟹江町、西は木曽川並びに三重県、北は愛西市に接し、南は伊勢湾に面し、昭和４８年４月１日に発足した１市（弥富市）１村（飛島村）からなる一部事務組合です。

地勢は、木曽川によって造成された沖積層からなり、海抜０メートル地帯で、東西６．４ｋｍ、南北１５．２ｋｍ、総面積７１．４２ｋ㎡の南北に細長い地形を有している地域です。

昭和３４年９月２６日未曽有の伊勢湾台風による堤防の破壊により大洪水を被り、多大な人的、物的被害を受けた地域でもあります。

道路、鉄道共に逐次整備され、主幹道路として国道１号線及び東名阪自動車道が北部を、国道２３号線が南部を横断し、国道１５５号線が西部を、国道３０２号線が東部を縦断しています。また、南部臨海部には「名港トリトン」の愛称で親しまれている伊勢湾岸自動車道が、名古屋から延び東名阪自動車道と接続されたことにより、道路網の要衝である地域です。鉄道は、管内北部にＪＲ関西本線、名鉄尾西線及び近鉄名古屋線の弥富駅があり、相互に乗換えが容易で、名古屋までは１５分と至近距離にある地域です。

名古屋市に隣接していることもあり、管内北部は鉄道網に関係して高層住宅や住宅団地等の住宅地、中部は田園地帯、南部は港湾の関係でコンテナ埠頭の一大物流基地が増設され、名古屋港の貿易の拠点となっております。さらには航空宇宙産業や木材、鉄鋼、造船等に関連した工業地帯が形成されています。

以上、管内は多種多様な地域が混在しています。

昭和48年 （1973）

４月　十四山村、飛島村、弥富町の１町２村で海部南部消防組合を設立

消防本部を設置、救急業務のみを開始

仮事務所を弥富町役場内に置く

指揮車（弥富ライオンズクラブから寄贈）、 救急車 Ⅲ－Ｂ型 各１台配備

９月　消防署を設置 消防業務を開始

普通消防ポンプ自動車１台配備、 小型動力ポンプ １台配備

１１月　水槽付消防ポンプ自動車 １台配備

１２月　救急指令装置Ｂ型設置

新庁舎へ移転し業務開始

昭和49年 （1974）

２月　消防庁舎竣工式

３月　救急車 Ⅲ－Ｂ型、連絡車 各１台配備

４月　海部南部危険物安全協会結成

８月　少年消防クラブ結成（十四山中学校・飛島中学校・弥富中学校）

１０月　広報車 １台配備（宇佐美鉱油店から寄贈）

昭和50年 （1975）

４月　海部南部消防連絡協議会結成

普通消防ポンプ自動車 １台配備（日本損害保険協会から寄贈）

１２月　東名阪自動車道が開通

昭和51年（1976）

７月　飛島村東浜三丁目の一部が石油コンビナート等特別防災区域に指定
（名古屋港臨海地区）

８月　補給車 １台配備

昭和52年（1977）

７月　名古屋港臨海地区飛島石油コンビナート等特別防災区域協議会設立

９月　船外機付舟艇 １艇配備

昭和53年（1978）

１０月　石油コンビナート等災害防止法により飛島共同防災協議会設立

昭和54年（1979）

２月　バスケット付大型高所放水車 １台配備

４月　弥富北中学校少年消防クラブ結成

昭和55年（1980）

２月　大型化学車 １台配備

１２月　泡原液搬送車 １台配備

昭和56年（1981）

１２月　北分署庁舎竣工、北分署業務開始
消防ポンプ自動車、救急車、広報車 各１台配備

昭和57年 （1982）

５月　本署　広報車 １台配備

１１月　水槽付消防ポンプ自動車 本署、分署 各１台配備

昭和58年 （1983）

１月　北分署　救急車 Ⅱ－Ｂ型 １台配備（日本自動車工業会から寄贈）

昭和59年 （1984）

３月　本署　救急車 Ⅲ－Ｂ型 １台更新

６月　本署　査察車 １台配備（海部南部危険物安全協会から寄贈）

８月　北分署　船外機付舟艇 １艇配備

昭和60年 （1985）

１０月　本署 普通消防ポンプ自動車 更新（日本損害保険協会から寄贈）

昭和61年 （1986）

１１月　飛島地区防災相互無線協議会設立

昭和62年 （1987）

２月　本署　救助工作車 １台配備

昭和63年（1988）

４月　南出張所業務開始

　　南出張所　救急車Ⅱ－Ｂ型 １台配備

８月　第１７回全国消防救助技術大会（横浜市）出場

　　はしご登はん

平成元年（1989）

６月　十四山中学校少年消防クラブが日本防火協会より優良少年消防クラブとして表彰

９月　本署　資機材搬送車 １台配備

平成2年（1990）

３月　北分署 普通消防ポンプ自動車 更新

７月　愛知県救助技術大会で障害突破が愛知県知事賞を受賞

８月　第１９回全国消防救助技術大会（広島市）出場

　　はしご登はん

平成3年（1991）

１月　本署　船外機付舟艇 １艇配備

１２月　南出張所　水槽付消防ポンプ自動車 １台配備

平成4年（1992）

３月　本署　水槽付消防ポンプ自動車 １台配備

　　緊急通報システム（高齢者在宅福祉事業）センターを設置

４月　消防緊急通信指令施設Ⅱ型（旧指令装置Ｂ型）を更新

平成5年 （1993）

１月　本署　指揮車 １台配備

　　海部南部消防組合発足２０周年記念誌を発行

８月　第２２回全国消防救助技術大会（福岡市） ２名出場

　　はしご登はん

平成6年 （1994）

３月　北分署 救急車 更新 Ⅱ－Ｂ型

５月　本署　査察車 １台配備（海部南部危険物安全協会から寄贈）

１１月　救急救命士誕生

平成7年 （1995）

１月　阪神・淡路大震災 消火隊（２隊）職員６名派遣

２月　高規格救急車 １台本署に配備

４月　愛知県海部事務所へ実務研修生として職員１名派遣

平成8年 （1996）

３月　南出張所庁舎増改築

４月　南出張所業務開始 水槽付消防ポンプ自動車、救急車、査察車 各１台配備

　　愛知県消防学校へ教官として職員１名派遣

１１月　本署　小型動力ポンプ １台配備

１２月　北分署及び南出張所　小型動力ポンプ 各１台配備

平成9年 （1997）

２月　本署　小型動力ポンプ付水槽車 １台配備

４月　愛知県消防協会へ実務研修生として職員１名派遣

８月　第２６回全国消防救助技術大会（千葉市）出場

　　ロープブリッジ渡過

平成10年 （1998）

１月　北分署　高規格救急車 １台更新

３月　本署　資機材搬送車 １台配備（弥富ライオンズクラブから寄贈）

４月　職員相互人事交流を開始（海部東部消防組合）

８月　第２７回全国消防救助技術大会（大阪市） ２種目出場

　　ロープブリッジ渡過

　　ロープブリッジ救出

平成11年 （1999）

２月　本署 水槽付消防ポンプ自動車 更新

３月　南出張所　査察車 更新（十四山村から寄贈）

４月　職員相互人事交流を実施（蟹江町、海部東部消防組合）

７月　愛知県救助技術大会でロープブリッジ救出が愛知県知事賞を受賞

８月　第２８回全国消防救助技術大会（横浜市）出場

　　ロープブリッジ救出

平成12年 （2000）

２月　北分署　水槽付消防ポンプ自動車 更新（（社）日本損害保険協会から寄贈）

本署　消防ポンプ自動車 更新

４月　愛知県消防防災課へ実務研修生として職員１名派遣

職員相互人事交流を実施（津島市、蟹江町、海部東部消防組合）

平成13年 （2001）

４月　職員相互人事交流を実施（津島市、蟹江町、海部東部消防組合）

当直課長制を実施

８月　第３０回全国消防救助技術大会（東京都）出場

はしご登はん

１２月　本署　高所放水車 更新

平成14年 （2002）

４月　職員相互人事交流を実施（津島市、蟹江町、海部東部消防組合）

愛知県防災航空隊へ職員１名派遣

８月　第３１回全国消防救助技術大会 （名古屋市） ２種目出場

はしご登はん

ロープブリッジ渡過

９月　名古屋市消防局へ実務研修生として職員１名派遣

１２月　本署　大型化学車 更新

平成15年 （2003）

４月　職員相互人事交流を実施（津島市、蟹江町、海部東部消防組合）

８月　第３２回全国消防救助技術大会 （仙台市） ２種目出場

ロープブリッジ救出

ロープブリッジ渡過

平成16年 （2004）

１月　北分署　消防ポンプ自動車 更新

２月　南出張所　高規格救急車 更新

４月　職員相互人事交流を実施（蟹江町、海部東部消防組合、海部西部広域事務組合）

潜水隊 運用開始

６月　本署　連絡２号車 １台配備（海部南部危険物安全協会から寄贈）

７月　福井豪雨　緊急消防援助隊愛知県隊（救助隊）職員５名派遣

平成17年 （2005）

１月　本署　泡原液搬送車 更新

２月　本署　救助工作車 更新

３月　２００５年日本国際博覧会における消防広域応援 職員１名派遣

８月　第３４回全国消防救助技術大会（さいたま市）出場

障害突破

平成18年 （2006）

４月　弥富町と十四山村とが合併し、弥富市となる。

１２月　本署　高度救助用資機材 整備

平成19年 （2007）

３月　本署　高規格救急車 更新

４月　愛知県防災局消防保安課へ実務研修生として職員１名派遣

６月　緊急通報システム（高齢者在宅福祉事業）センター設備更新

１１月　南出張所　水槽付消防ポンプ自動車 更新

平成20年 （2008）

１月　北分署 高規格救急車　更新

８月　ＩＰ・携帯発信位置情報通知システム 導入

１２月　本署　査察車 更新

平成21年 （2009）

６月　伊勢湾台風５０年総合防災訓練を弥富市木曽川で実施

平成22年 （2010）

４月　愛知県消防学校へ教官として職員１名派遣

５月　ドクターカー運用開始（海南病院）

８月　第３９回全国消防救助技術大会（京都市）出場

　　ロープブリッジ救出

１１月　北分署仮眠室個室化

平成23年（2011）

２月　海部地方消防指令センターの設置及び運用に関する覚書の締結

３月　東日本大震災　緊急消防援助隊愛知県隊（消火隊）職員３７名派遣

７月　北分署　水難救助用ゴムボート 配備

１１月　本署　連絡車 更新

平成24年（2012）

３月　南出張所　高規格救急車 更新

８月　第４１回全国消防救助技術大会（東京都）出場

障害突破

平成25年（2013）

２月　海部地方消防通信指令事務協議会の設置に関する協議書の締結

４月　海部地方消防通信指令事務協議会設置

海部地方消防指令センター運用開始（弥富市役所十四山支所２階）

海部地方消防通信指令事務協議会へ職員５名派遣

愛知県防災航空隊へ職員１名派遣

平成26年 （2014）

２月　本署、北分署　水槽付消防ポンプ自動車 更新

３月　南出張所　水難救助用舟艇 配備

４月　津波・大規模風水害対策車 配備（総務省消防庁無償貸与）

６月　本署　連絡３号車 配備（海部南部危険物安全協会から寄贈）

７月　南出張所　資機材搬送車 配備（有限会社佐藤石油店から寄贈）

９月　御嶽山噴火災害　緊急消防援助隊愛知県隊（救助隊）職員１０名派遣

平成27年 （2015）

２月　本署　高規格救急車 更新

４月　消防救急デジタル無線運用開始

　　愛知県防災局消防保安課へ実務研修生として職員１名派遣

７月　救急救命士 処置範囲拡大開始

８月　北分署　電動油圧救助器具 配備

１２月　署活動波携帯無線機運用開始

　　本署　水槽付消防ポンプ自動車 配備（旧 飛島村消防団車両）

平成28年 （2016）

１１月　愛知県・弥富市津波・地震防災訓練

平成29年 （2017）

２月　北分署　高規格救急車 更新

５月　本署　無人航空機（ドローン） 配備

１０月　愛知県石油コンビナート等防災訓練

１２月　水難救助用ウレタンボート 配備

平成30年 （2018）

４月　名古屋市救急救命研修所へ実務研修生として職員１名派遣

７月　豪雨　緊急消防援助隊愛知県隊（救助隊）職員１０名派遣

１０月　現場映像中継システム 運用開始

令和元年 （2019）

４月　愛知県消防学校へ教官として職員１名派遣

感染症患者等の移送に関する協定 締結 （愛知県津島保健所）

８月　第４８回全国消防救助技術大会（岡山市）出場

ロープブリッジ救出

１１月　愛知県・飛島村津波・地震防災訓練

１２月　浸水時における緊急一時避難施設としての使用に関する協定 締結

（名港海運株式会社）

南出張所　高規格救急車 更新

令和2年 （2020）

３月　本署　指揮車 更新

４月　消防活動における重機等による支援に関する協定 締結

（海南土建株式会社、株式会社佐藤工務店、株式会社中島水道、

大栄建設株式会社、有限会社黒宮造園）

１２月　Ｎｅｔ１１９ 緊急通報システム 運用開始

令和3年 （2021）

２月　本署　救助工作車 更新

　　消防救急デジタル無線システム部分更新

７月　静岡県熱海市土石流災害　緊急消防援助隊愛知県隊（救助隊）職員１５名派遣

令和4年 （2022）

２月　北分署　消防ポンプ自動車 更新

４月　愛知県における航空機を用いた市町村等の消防支援協定 締結（愛知県）

　　愛知県防災安全局消防保安課へ実務研修生として職員１名派遣

　　弥富市役所防災課へ実務研修生として職員１名派遣

　　飛島村役場総務課へ実務研修生として職員１名派遣

８月　第５０回全国消防救助技術大会（東京都）出場

　　ロープブリッジ救出

令和5年 （2023）

３月　南出張所　水槽付消防ポンプ自動車 更新

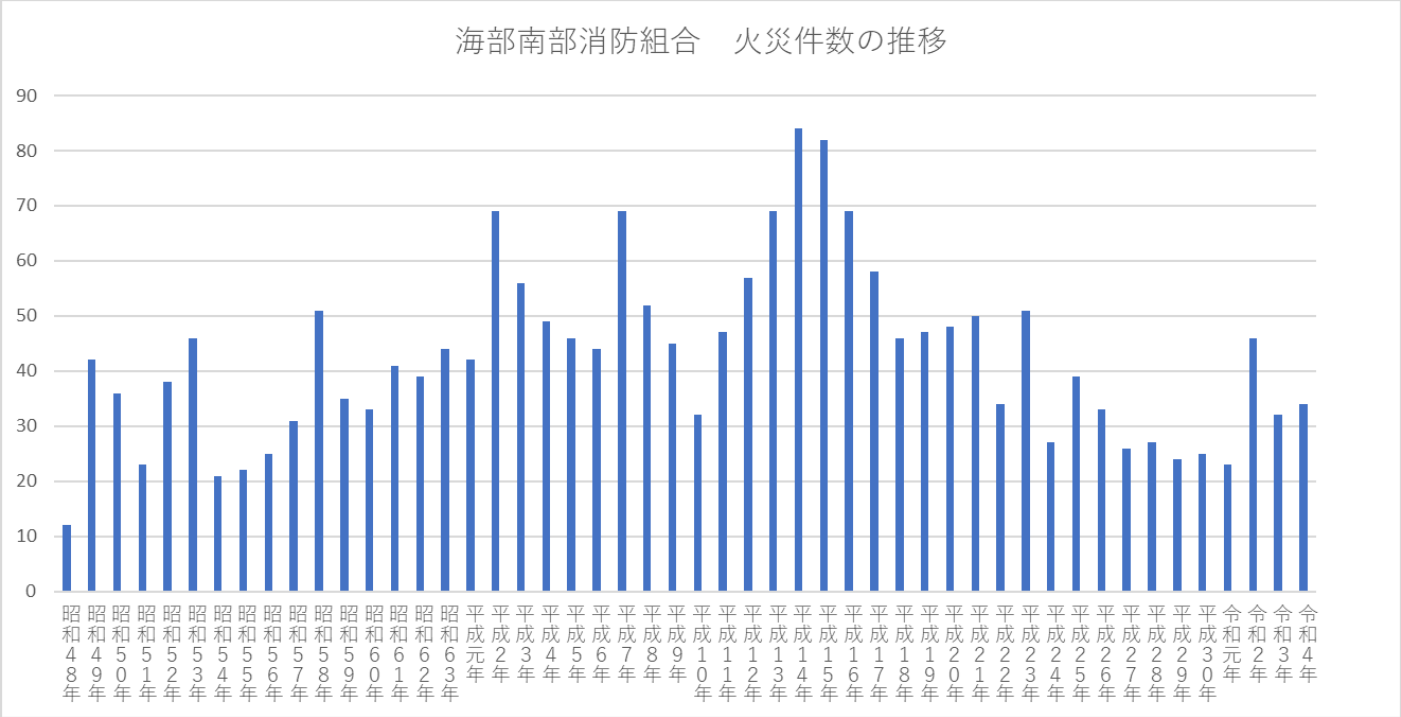
４月　愛知県消防協会へ実務研修性として職員１名派遣

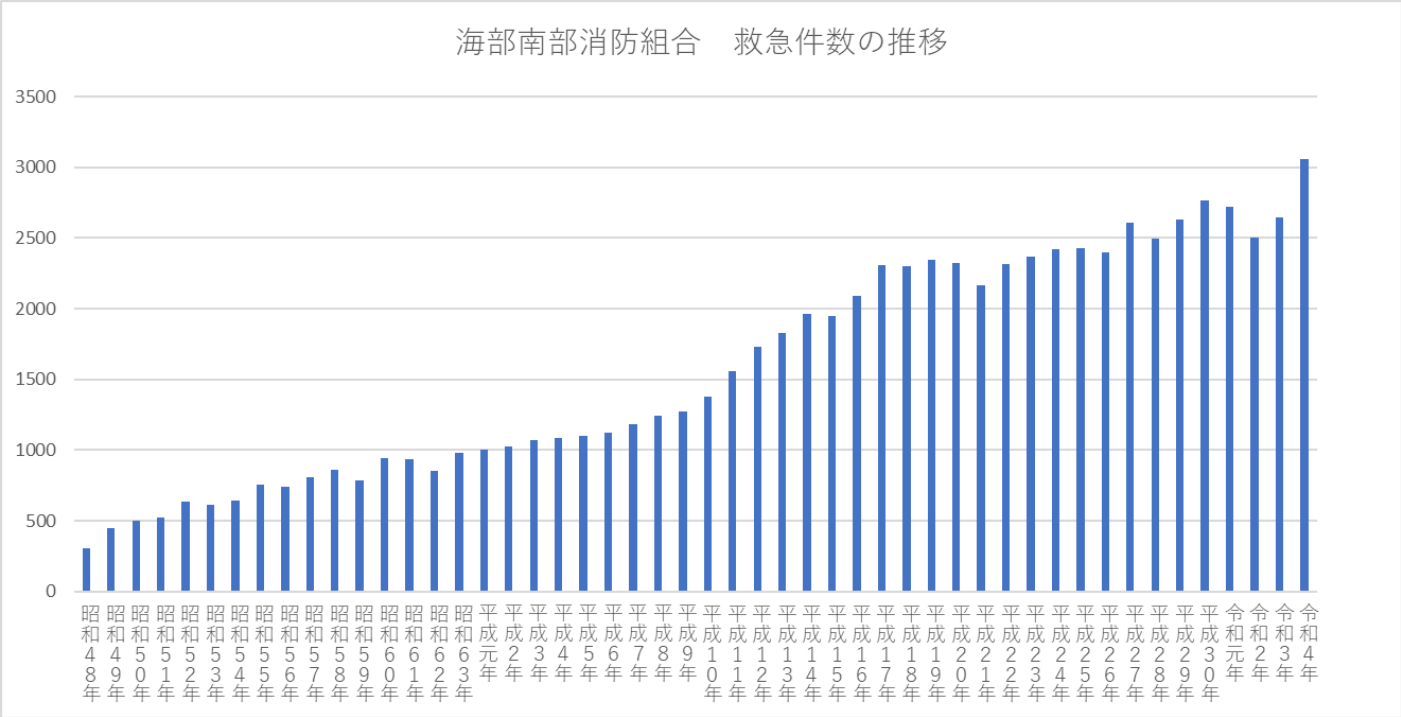
　　海部南部消防組合新庁舎建設工事開始

８月　第５１回全国消防救助技術大会（札幌市）出場

　　障害突破

火災・救急件数の推移


海部南部消防組合　火災件数の推移
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
昭和48年
昭和49年
昭和50年
昭和51年
昭和52年
昭和53年
昭和54年
昭和55年
昭和56年
昭和57年
昭和58年
昭和59年
昭和60年
昭和61年
昭和62年
昭和63年
平成元年
平成2年
平成3年
平成4年
平成5年
平成6年
平成7年
平成8年
平成9年
平成10年
平成11年
平成12年
平成13年
平成14年
平成15年
平成16年
平成17年
平成18年
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年
平成28年
平成29年
平成30年
令和元年
令和2年
令和3年
令和4年


海部南部消防組合　救急件数の推移
3500
3000
2500
2000
1500
1000
500
0
昭和48年
昭和49年
昭和50年
昭和51年
昭和52年
昭和53年
昭和54年
昭和55年
昭和56年
昭和57年
昭和58年
昭和59年
昭和60年
昭和61年
昭和62年
昭和63年
平成元年
平成2年
平成3年
平成4年
平成5年
平成6年
平成7年
平成8年
平成9年
平成10年
平成11年
平成12年
平成13年
平成14年
平成15年
平成16年
平成17年
平成18年
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年
平成28年
平成29年
平成30年
令和元年
令和2年
令和3年
令和4年

海部南部消防組合は、発足５０年を迎えました。
令和７年に防災拠点となる新庁舎が完成し、消防力の増強や装備等の強化を図り、地域住民の皆様に安心と安全、そして優しさを提供できる災害に強い海部南部消防組合を目指していきます。